No.12　2018.6.6

mini TALK

THE GIFU SHINKIN BANK NEWSLETTER

岐阜信用金庫

イノベーション開発室
岐阜市神田町６丁目 11 番地
TEL. 058-266-2211

外国為替相場について（第３回）　～為替相場の予想について～　最終回

年末・年始に新聞・情報誌・各種レポート等で掲載される「今年の相場予想」という記事を見られた方は多いと思います。相場予想に使うツールとして有名なのが、「テクニカル分析」です。外国為替相場に携わる者の間でも使用頻度が高いツールのひとつです。今回は、テクニカル分析についてご紹介します。

テクニカル分析について

テクニカル分析とは相場の値動きそのものに焦点を当て、「今は割高か？割安か？」や「投資するタイミングはいつか？」等を分析する手法です。

テクニカル分析に関する理論は沢山ありますが、今回は「パターン分析」について簡単に紹介します。パターン分析とは、「値動きがこの形になったら、次はこう動く」といった具合に、過去の値動きの形から、将来の値動きを分析する手法です。その値動きの形は「トレンド継続パターン」と「トレンド転換パターン」との２種類に分けられます。

図１はトレンドが一旦休止する値動きの代表的な例で、上下に点線を引いてある部分はトレンドの動きが休止している箇所になります。（トレンドが休止している期間の値動きにも色々と細かいルールがありますが、今回はイメージのみ紹介いたします。）

実際の例として図２をご覧ください。①円安トレンド→②円安トレンドが一旦休止→③円安トレンドが再開した、というのが大まかな流れです。②に該当する部分が「円安トレンドは終わっていない、また再開するよ」という形になっていたのです。

このパターンの特徴としては、変動はしているけど、似たような相場水準で行ったり来たりしていること等が挙げられます。そのため、このような値動きをしている場合は、「近いうちに元のトレンドに戻るかもしれない」と予想することが出来るのです。

（１）トレンド継続パターン

図１：元のトレンドに戻る代表例

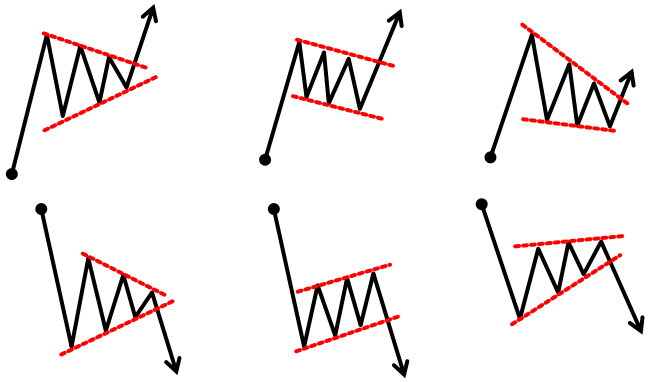
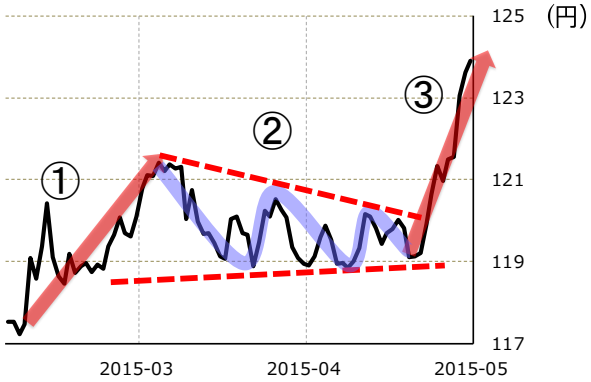


図２：アメリカドル／円相場(‘15 年２月～‘15 年５月)



（２）トレンド転換パターン

図３：トレンド転換の代表例

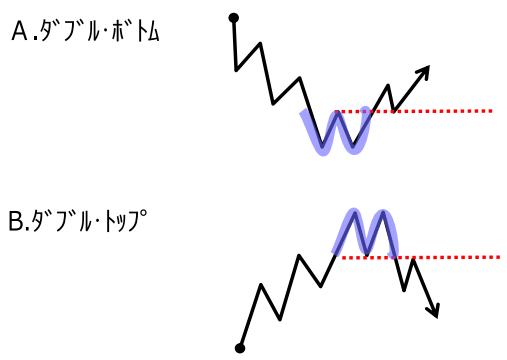


図４：豪ドル／円相場('17 年 11 月～'18 年２月)

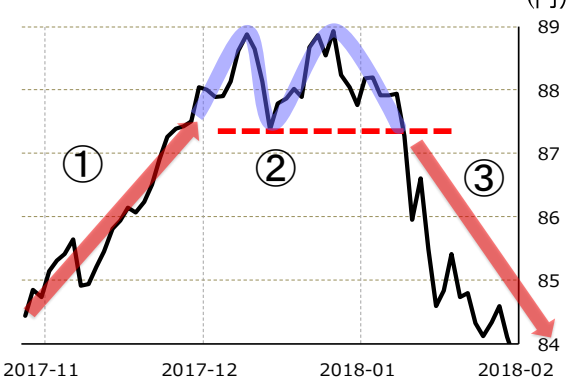


図３は、それまでのトレンドが転換する値動きの代表的な例で、点線がトレンド転換のカギとなる相場水準を示しています。下落トレンドから上昇トレンドへ転換するパターンを「ダブル・ボトム」(図３－A)と呼び、上昇トレンドから下落トレンドへ転換するパターンを「ダブル・トップ」(図３－B)と呼びます。

実際の例として図４をご覧ください。①円安トレンド→②ダブル・トップ→③円高トレンドというのが大まかな流れになります。

このパターンの特徴としては、前回と今回の高値(又は安値)がほぼ同じ水準であることです。そのため、この形になりそうな時、「トレンドの転換が近いかもしれない」と予想することが出来ます。

ジブリの法則

テクニカル分析以外にも、相場予想をするためのツールが星の数ほど存在しています。ここでは、「ジブリの法則」をご紹介します。

これは、「某テレビ局が金曜日の夜にスタジオ・ジブリの映画を放送すると、為替相場が乱高下する」というものです。

一説によると、「ジブリ映画はその月の第一金曜日に放映されることがある。第一金曜日はアメリカの雇用統計の発表日であり、本来は雇用統計の数字に対する為替相場の乱高下だった」とのことです。しかし、「相場が荒れた日に、たまたまジブリ映画が放映されていた」ことが、いつの間にか「ジブリ映画が放映される日は、為替相場が荒れる」という解釈に変わってしまったのは偶然が重なった結果でもあります。

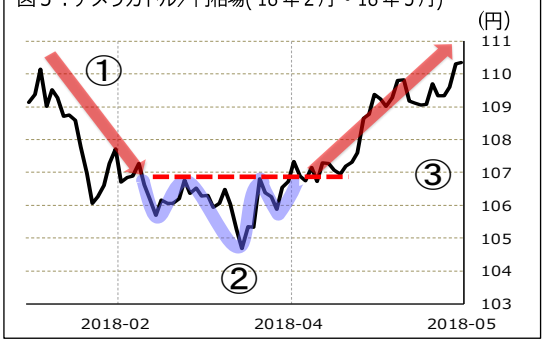
こういった、はっきりとした根拠はないが、よく当たる経験則のことを「アノマリー」と言います。ジブリ映画が放映する日に、一度為替相場も気にしてみてはいかがでしょうか。

最近のアメリカドル/円相場

最近のアメリカドル／日本円相場については、１月から続いた円高トレンド(図５①)が円安トレンドへと転換しています(図５③)。

この時の値動きのパターンは「ヘッドアンドショルダーズ・ボトム」というトレンド転換パターンです。図３の代表例には掲載していませんが、これも有名なパターンのひとつです。(図５②)

図５：アメリカドル／円相場('18 年２月～'18 年５月)



岐阜信用金庫　国際業務部
酒井 慶喜